



## ★乳児の主体性とは…

夏真っ盛りの7月下旬、市内の保育所を訪問しました。0・1歳児の保育室に入ると、手作りおもちゃが豊富に置かれ、子ども達が夢中になって遊ぶ姿が見られました。

今月号では「乳児の主体性」についてお伝えします。

- ① 一人の乳児が、手作り玩具(指先を使う玩具)に気づき興味・関心をもちました。となりで遊んでいる1歳児(高月齢児)の様子を見て、穴にボールを落とすことを知り、模倣を始めました。

### 【気づき、興味・関心の芽生えの瞬間】

=ときめき

- ② 大きさの違うボールを入れ始めました。

### 【乳児の試行錯誤】

=ひらめき

- ③ うまくいくとパチパチと手をたたき、担任と目を合わせ喜び合いました。

### 【大人の受容的・応答的な関わりによる自己肯定感の芽生えの瞬間】

=ときめき

- ④ 他にも入れるものはないか探し始めました。

### 【乳児の試行錯誤・意欲】

=ひらめき

- ⑤ 違う形のチェーンを見つけ、入れ始めました。

その後5~10分ほど夢中になって繰り返し遊んでいました。

### 【乳児の学びに向かう力】=「ときめき」と「ひらめき」の繰り返し

乳幼児期はこのような遊びや生活を、毎日の中でたくさん繰り返し、多様な経験を

をする中で0歳、1歳、2歳…と積み重ねられていきます。特に③では、乳児が

「できたよ、見て」といった声なき声に、周りの大人がタイミングを逃さず、「うん、できたね。すごいね。」と視線を合わせて受容的・応答的に関わっておられました。これは乳児の「私って、すごい。」といった自尊感情であり、とても重要な関わりです。子どもが必要としている瞬間に必要な関わりをすることが、「伊丹市幼児教育ビジョン」の中にある「愛情」に該当します。子どもの主体的な「意欲」をしっかりと認め、見守り、見極めてかかわることが、幼児教育・保育者としての専門性であると考えます。どの年齢においても一人ひとりの発達段階を踏まえ、子どもが自ら環境に働きかけ、その遊びを通して学ぶことを大切にしたいです。

これはなんだろう？なるほど。そうやって遊ぶのか。やってみよう。

乳児

1歳児高月齢児



①

おもしろい。違う大きさのボールも入れてみよう。



②

うまくいったよ。上手にできた。見てくれた？ やった！パチパチ



③

他の物も入れてみよう。



④

チェーンも入れてみよう。ちょっと難しいけど、入るかな。



⑤

## ★幼児教育と小学校教育の接続研修の開催

さる令和3年7月30日に第5回伊丹市幼児教育研修会がスワンホールで開催されました。内容は、本市の幼児教育の重点項目でもあります「幼小接続」です。市内の就学前施設の先生方と小学校の先生方が、ブロックごとに集まり、日々の子ども達の姿(写真)を通して、語り合いました。

子どもの姿を通して、教育・保育内容を伝え合い「子どもの主体的な姿を大事にする」といった共通のねらいのもと、会話が



が盛り上がりました。「子ども達は、幼稚園や保育所でそのような経験をしていたのですね。知りませんでした。」(小学校教諭談)

「小学校では、授業ばかりでなく、1年生には体験を通じて伝える事を大事にされているのですね。共感します。」(就学前施設職員談)などの声があがっていました。

0歳から5歳へ、そして学童期へ、発達や学びはつながっていきます。そのつながりを円滑に行うには、幼児教育と小学校教育が互いを知り、共通認識、共通理解をもって、子ども達に向き合っていきたいです。

## ★文部科学省との意見交換会(幼児教育 C 事業報告)

伊丹市立幼児教育センターでは、開設当初より文部科学省の「幼児教育推進体制の充実・活用強化事業」の採択を受け、アドバイザー訪問や関西学院大学提携による保育環境スケールの作成等を行っています。定期的に、他府県や他市町村と意見交換会を行い、幼児教育についての動向等の情報共有をしています。8月は、幼児教育アドバイザーの派遣や研修の実施など「幼児教育アドバイザーの効果的な支援」をテーマとして、意見交換を行いました。



【文科省とのオンライン意見交換会の様子】

文部科学省幼児教育課 教科調査官の小久保篤子氏、京都教育大学の賀松香教授にご講演を頂き、また他府県の取り組み内容を知り得ることができました。本市の益々の幼児教育推進に努めることを、アドバイザー一同、気持ちを新たに致しました。7月に送付いたしました「幼児教育センターの活用ガイドライン」をご参考の上、是非とも幼児教育センターをご利用ください。

## ★おススメ保育専門書

「質の向上を目指す保育  
マネジメント」  
編著:井上眞理子他  
出版:中央法規



失敗は成功のもと。次へ活かすマネジメントが事例を通して掲載されています。

「あたりまえを見直したら保育はもっとよくなる」  
監修:足立区教育委員会  
出版:学研



あなたも毎日の「あたりまえ」を見直してみませんか。足立区発信。興味深い一冊です。

保育の質を高めるドキュメンテーション 園の物語の探究  
監修:秋田喜代美  
松本理寿輝



ドキュメンテーションをよりスキルアップするためのヒントがココにあります。

☆ご紹介の専門書は幼児教育センターの貸本です。是非お越しいただき、ご覧ください。